

2019年3月13日(水)

## HTB ノンフィクション「聞こえない声」 第10回メディアアンビシャス大賞で入賞

### 映像部門メディア賞受賞

HTB 北海道テレビ（本社：札幌市中央区 代表取締役社長：寺内達郎 ※以下 HTB）は3月2日、2018年（第10回）メディアアンビシャス大賞・映像部門で、HTB ノンフィクション「聞こえない声～アイヌ遺骨問題 もうひとつの150年～」が、準大賞にあたるメディア賞を受賞しました。

受賞した作品は、大学に保管されているアイヌ民族の遺骨返還運動をテーマに、アイヌ民族の先祖を敬う独特の死生観と、自然と一体となった世界観を描いたドキュメンタリーです。

HTB がメディアアンビシャス大賞で入賞するのは、HTB ノンフィクション「国の責任を問うということ～由仁町 C 型肝炎訴訟の行方～」(放送 2012 年 5 月 24 日北海道ローカル)が 2012 年映像部門アンビシャス賞を受賞して以来となります。

受賞番組 HTB ノンフィクション「聞こえない声～アイヌ遺骨問題 もうひとつの150年～」  
放送：2018年4月23日(月) 25:20～26:20 (北海道ローカル)  
撮影・ディレクター：藤島保志 (アウンビジョン)  
プロデューサー：沼田博光 (HTB)

受賞コメント 沼田博光プロデューサー

「アイヌの人々の視点で明治以降の歴史を振り返った時、遺骨返還問題に代表される様々な差別やいじめなどが、今もなお大きな問題として残されていることがわかってきました。これまで積極的に伝えられなかった事実を2017年から伝え始め、番組に繋がりました。今回メディア賞に選ばれたことは大変名誉なことであり、またこの問題を追いつけたことについて、大いに背中を押していただいたと感じています。今後も引き続き多くのアイヌの皆さんの声を聴き、共生のあり方について取材を深めたいと考えています。」

#### 【メディアアンビシャスとは】

メディアアンビシャスは、北海道の有識者、メディア出身者らにより、「テレビや新聞などにおいて、すぐれた報道を表彰してメディアを応援しよう」という趣旨でつくられた札幌の市民団体で、代表は元北海道大学大学院、現法政大学の山口二郎教授。

原則として北海道で視聴可能な作品から表彰対象を選定し、推薦理由などと共に「メディアアンビシャス大賞」として毎年発表している。

メディアアンビシャスホームページ <http://media-am.org/>